

# 施策評価シート

幹事部局

地域振興部

<b>施策の名称</b>	VIII-2-(3) 交通安全対策の推進
<b>施策の目的</b>	交通安全県民運動や交通安全教育を推進し交通安全意識を一層高め、交通環境の整備や交通指導取締りにより、県民を交通事故から守ります。
<b>施策の現状 に対する評価</b>	<p>(島根県内における交通事故の発生状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交通事故発生件数及び負傷者数は平成22年以降10年連続で減少している。</li> <li>令和元年の交通事故による死者数は25人と3年連続で全国最小となったが、死者数に占める高齢者の割合が72%と高い比率が続いている。</li> </ul> <p>また、高齢者が関与する交通事故の割合は増加傾向にあり、令和元年の交通事故の約44%に高齢者が関与している。</p> <p>(交通安全対策や交通安全教育の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県民の交通安全意識向上や交通安全習慣の定着に向け、交通安全県民運動を通じた広報啓発や交通安全教育を推進した結果、交通事故発生件数や負傷者数は減少傾向が続いており、交通事故抑止に一定の成果が認められるが、死者数に占める高齢者の割合が高い等の課題がある。</li> </ul> <p>(交通指導取締りの強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>飲酒運転や横断歩行者妨害など悪質・危険性の高い違反の交通指導取締り等を推進した結果、交通事故発生件数は減少傾向にあるが、交通事故に占める高齢者関与事故の割合が増加傾向にある等の課題がある。</li> </ul> <p>(安全で快適な交通環境の実現)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>信号灯器のLED化及び道路標識の高輝度化による視認性の向上や視覚障害者用付加装置の設置及び信号機の歩車分離化による歩行者の安全確保など交通安全施設の整備により一定の交通事故抑止効果が認められた。しかし、交通安全施設の老朽化に伴い更新整備必要数が増加しているという課題もある。</li> </ul>
<b>今後の取組 の方向性</b>	<p>(交通安全対策や交通安全教育の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県民の交通安全意識を高めるため、関係機関・団体と連携して、交通安全県民大会や各季における交通安全運動を実施する。</li> <li>高齢者の交通事故防止を重点に、高齢者世帯への個別訪問などのきめ細かな交通安全対策を実施する。</li> </ul> <p>(交通指導取締りの強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交通事故実態に応じた交通指導取締りや生活道路における高齢者の保護誘導活動を実施するなど街頭活動を一層強化する。</li> </ul> <p>(安全で快適な交通環境の実現)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道路利用者の安全を確保するため、計画的な交通安全施設の整備・更新を推進する。</li> <li>平成26年度に県内全市町村で策定された通学路交通安全プログラムに基づき、歩道を計画的に整備する。</li> <li>未就学児の移動経路及び通学路については、関係機関と合同で安全点検を実施し、危険箇所に対する効果的な対策に係る技術支援、検討、実施を図る。</li> </ul>



## 事務事業の一覧

施策の名称		Ⅷ-2-(3) 交通安全対策の推進				
	事務事業の名称	目的		前年度の 事業費 (千円)	今年度の 事業費 (千円)	所管課名
		誰(何)を対象として	どういう状態を目指すのか			
1	交通安全推進事業	県民	交通安全意識を高め、交通事故防止の徹底を図る。	5,956	6,630	交通対策課
2	運輸事業振興助成事業	トラック・バス・タクシーの運輸事業者団体	交通安全対策、旅客又は貨物輸送サービスの改善向上、環境対策などに取り組む。	112,786	111,755	交通対策課
3	交通事故相談所運営事業	交通事故被害者等	被害者及びその家族等の抱える問題の解決を助け、悩みを軽減する。	5,687	6,809	交通対策課
4	交通安全事業(防護柵設置)	道路利用者	より安全で快適に道路を歩行・走行できるようにする。	584,404	1,650,697	道路維持課
5	通学路交通安全事業(歩道整備)	道路利用者(児童生徒)	通学路における歩行空間の整備を図り、児童生徒が安全に通学できるように通学路の安全確保する。	2,184,724	3,240,408	道路建設課
6	交通事故総量抑制事業	・県民	・交通事故状況に基づいた交通安全教育、交通指導取締り、広報啓発活動等を通じて、県民の交通安全意識の高揚を図り、交通事故のない社会を目指す。	388,603	393,045	警察本部交通企画課
7	交通管制システム整備事業	・運転者や歩行者などの道路利用者	・交通管制システムを整備し、道路利用者の安全で円滑な交通を確保する。	273,762	342,117	警察本部交通規制課
8	交通安全施設整備事業	・運転者や歩行者などの道路利用者	・交通信号機など交通安全施設の整備を推進し、交通事故防止と交通の円滑化を図る。	462,644	487,893	警察本部交通規制課
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

交通対策課

事務事業の名称		交通安全推進事業			
目的	誰(何)を対象として	県民	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	交通安全意識を高め、交通事故防止の徹底を図る。		うち一般財源 (千円)	5,956
今年度の取組内容	1 交通安全運動推進事業…安全運転・安全行動の徹底のため、交通安全県民大会や各季における交通安全運動を実施。 2 交通安全対策協議会事務…各種会議にて、運動の趣旨・重点・進め方等を協議・決定し、連携して運動等を推進。 3 交通指導員研修事業…交通指導員の指導技術の維持・向上を図るため、研修会を開催。 4 子どもと高齢者の交通事故防止対策事業…幅広い世代を対象に交通安全意識の高揚を図るため、交通安全リーダー研修、高齢者戸別訪問や三世代交流の交通安全教室などを実施。				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・幅広い年代、生活の各場面(家庭・学校・職場・地域)に広く広報・啓発を行うため、関係機関・団体等と連携・協力している。 ・高齢者交通事故防止対策の取り組みに関し、県警はじめ関係機関・団体等と十分に検討する。				
1	上位の施策	VIII-2-(3) 交通安全対策の推進	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	交通事故死者数(交通事故発生から24時間以内に死亡した人数)【前年度1月～当該年度12月】	目標値		18.0	18.0	17.0	17.0	16.0	人以下	単年度値
		実績値	25.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2	交通事故死傷者数(交通事故発生から24時間以内に死亡した人数及び負傷者数)【前年度1月～当該年度12月】	目標値		1,050.0	1,020.0	990.0	960.0	930.0	人以下	単年度値
		実績値	1,083.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・令和元年の交通事故による死者数は全国最小(山梨県と同数) ・高齢者の死者数は18人で前年より6人増加し、全死者数との割合は「72.0%」と依然高い比率が継続 ・なお、第10次県交通安全計画の目標値は、年間死者数18人以下、死傷数1300人以下、高齢者交通事故死者数 全死者数の半数以下								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・県民の交通安全意識向上や交通安全習慣の定着に向け、交通安全県民運動を通じた広報啓発を推進した結果、交通事故発生件数や負傷者数は減少傾向が続いており、交通事故抑止に一定の成果が認められる。 H29 H30 R1 死者数 17人(▲11) 死者数 20人(+3) 死者数 25人(+5) 負傷者数1,485人(▲52) 負傷者数1,212人(▲273) 負傷者数1,058人(▲154) 発生件数1,282件(▲32) 発生件数1,023件(▲259) 発生件数927件(▲96)
課題分析	① 課題	・「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点 ・交通事故死者数については平成29年度に目標を達成したが、平成30年度、令和元年度は目標を達成できなかった。 ・高齢者の死者数の増加や、死者数に占める高齢者の割合が高いこと、第1当事者として高齢者の構成比率が増加傾向であることが支障となっている。
	② 原因	・交通安全にかかる啓発が県全体に十分届いていない。 ・運動能力等が低下してきた高齢運転者への啓発・取り組みが難しい。
	③ 方向性	・県民の交通安全意識を高めるため、関係機関・団体と連携して、交通安全県民大会や各季における交通安全運動を実施する。 ・高齢者の交通事故防止を重点に、県交通安全母の会連合会などのボランティアによる高齢者世帯への個別訪問や、子どもとその親、祖父母の三世代が参加する交通安全教室を実施する。 ・全国に先んじて高齢化が進んでいる本県では、各地域や世帯の状況に応じたきめ細かな高齢者対策や交通安全対策を展開し、交通事故防止に努めることが必要であり、県交通安全対策協議会関係各会議、県交通安全対策会議幹事会等で取り組みの検討を重ねる。



# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

交通対策課

事務事業の名称		運輸事業振興助成事業			
目的	誰(何)を対象として	トラック・バス・タクシーの運輸事業者団体	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	交通安全対策、旅客又は貨物輸送サービスの改善向上、環境対策などに取り組む。		112,786	111,755
			うち一般財源 (千円)	112,786	111,755
今年度の取組内容	公益社団法人島根県トラック協会、一般社団法人島根県旅客自動車協会、松江市交通局に対して助成を行い、トラック、バス、タクシー等の県内年間事故件数の減少に寄与する。 【主な助成目的】 ・旅客又は貨物輸送の安全確保 ・旅客又は貨物輸送におけるサービスの改善・向上 ・公害防止や地球温暖化防止等の環境保全 ・経営の安定化 等				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	各事業所において、運転者に対する再教育の充実、安全運転管理体制の強化、交通労働災害の防止、車両の安全性の確保等の取組をさらに推進する。				
1	上位の施策	VIII-2-(3) 交通安全対策の推進	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	トラック・バス・タクシー等の事故件数【前年度1月～当該年度12月】	目標値		40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	件以下	単年度値
		実績値	40.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		○本補助金を活用した交通事故防止策が行われたことにより、各種交通安全対策が実施され、トラック・バス・タクシー等の県内年間事故件数は、減少傾向にある。 ○県トラック協会では、本補助金を使用して、県や市町村が実施する防災訓練の参加、また災害時の物資輸送のための体制整備や委員会の開催等を行っている。								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	以下の取組みにより安全運行の体制整備が行われている。 ○県トラック協会 ・交通安全の意識向上のための大会や研修会を開催 ・運転者適正診断等を活用したドライバーの指導 ・ドライブレコーダー導入の助成 ・企業の適正化巡回指導による体制整備 ○県旅客自動車協会 ・ドライブレコーダー・デジタルタコグラフの導入 ・SAS(睡眠時無呼吸症候群)検査 ・運転者適正診断等を活用したドライバーの指導 ・車内事故防止ポスターの製作、掲出
課題分析	① 課題	・目標は達成しているが、令和元年度には40件の交通事故が発生している。(令和元年度目標値:60.0) ・県トラック協会が行っている巡回指導による指摘数は減少していない。
	② 原因	上記①(課題)が発生している原因
	③ 方向性	「運輸事業の振興の助成に関する法律」に基づく事業であり、補助金を活用することにより、自動車運行事業者の安全運行管理に関する研修の充実、運行管理や安全運転に資する機器等の普及促進、事故防止に向けた外部専門家等による教育指導、運転者適正診断の受診等を推進する。安全運行の確保は適正な体制の整備と日々の啓発の積み重ねにより確保されるものであり、時代に応じた取組を取り入れつつも、継続した取り組みが必要。

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

交通対策課

事務事業の名称		交通事故相談所運営事業			
目的	誰(何)を対象として	交通事故被害者等	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	被害者及びその家族等の抱える問題の解決を助け、悩みを軽減する。		5,687	6,809
			うち一般財源 (千円)	5,687	6,809
今年度の取組内容	交通事故被害者対策として、交通事故相談所を松江市と浜田市に設置して専門的知識を有する相談員2名を配置、出雲市、大田市、益田市、隠岐の島町の4か所では巡回相談を実施し、相談者の抱える問題の解決にあたっている。				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	新聞、放送等を通じて、相談を必要とする多くの県民に相談所の存在を広報し、活用を促していく。				
1	上位の施策	VIII-2-(3) 交通安全対策の推進	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	交通事故に関する相談者の満足度(相談が役に立ったとする相談者の比率)【当該年度4月~3月】	目標値		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	%	単年度値
		実績値	92.9							
		達成率	-	-	-	-	-	-		
2		目標値							%	
		実績値								
		達成率	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・相談件数 島根県 R元年度:170件(前年比▲26件、▲13.3%)H30年度:196件(前年比▲8件、▲3.9%)H29年度:204件 全国 R元年度:33,546件(前年比▲5,291件、▲13.6%)H30年度:38,837件(前年比▲4,720件、▲10.8%)、H29年度: 43,557件 ・交通事故死傷者数(暦年)に対する相談件数(年度)の割合 島根県 R元年度:15.7%、H30年度:15.9%、H29年度:13.6% 全国 R元年度:7.2%、H30年度:7.4%、H29年度:7.5% ・アンケートで「相談してよかった」理由は「損害賠償交渉の進め方全般」が最多で「過失相殺」が次ぐ。								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<p>相談者のニーズに的確に対応できるよう、相談員の積極的な研修会への参加や、各専門書の入手などによる相談員のスキル向上を図ることにより、相談者が満足を得られるよう丁寧な相談活動に努めた。その結果、令和元年度のアンケートでは相談者のほとんどから「相談が役に立った」との回答があった。</p> <p>また、交通事故相談所について周知するため、県民だよりの掲載、市町村広報誌への掲載依頼などを行った。</p>
課題分析	① 課題	相談者の満足度の目標は概ね達成しているが、そもそも交通事故相談所について知らない人が多い。
	② 原因	上記①(課題)が発生している原因
	③ 方向性	<p>引き続き、市町村や関係機関、団体等と連携し、県民の身近な相談窓口として周知を図る。</p> <p>・県民だより等、広報媒体を利用し周知を図る。</p> <p>・県ホームページの充実を行う。</p>

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

道路維持課

事務事業の名称		交通安全事業(防護柵設置)			
目的	誰(何)を対象として	道路利用者	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	より安全で快適に道路を歩行・走行できるようにする。		584,404	1,650,697
			うち一般財源 (千円)	10,124	22,474
今年度の取組内容	道路利用者がより安全で快適に道路を歩行・走行できるよう、道路附属物の整備を行う。				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	昨年5月に滋賀県大津市で起こった交通事故をうけ、未就学児の移動経路の緊急点検を行い危険箇所を抽出、今後対策を実施する。				
1	上位の施策	VIII-2-(3) 交通安全対策の推進	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	防護柵整備率【当該年度3月時点】	目標値		65.8	68.5	71.1	73.8	76.4	%	累計値
		実績値	61.4							
		達成率	-	-	-	-	-	-		
2		目標値							%	
		実績値								
		達成率	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		○平成19年に策定した「車両防護柵整備方針」に沿って、防護柵(ガードレール)の整備を計画的に実施 ※整備予定箇所を危険性から3段階に優先順位付けし、危険性の高い優先順位1から優先的に整備 令和元年度防護柵(ガードレール)整備状況 優先順位1 計画延長 3.8km 整備済延長 3.8km 整備率100%(内、R1年度整備0.0km) 優先順位2 計画延長 63.5km 整備済延長 37.5km 整備率59%(内、R1年度整備0.2km) 合計 計画延長 67.3km 整備済延長 41.3km 整備率61%(内、R1年度整備0.2km)								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	県内の交通事故の発生件数、死傷者数は減少傾向にある。(「図説交通統計」より) ※事故発生件数 H27:1,388件、H28:1,314件、H29:1,282件、H30:1,023件、R1:927件 ※死傷者数 H27:1,640人、H28:1,565人、H29:1,502人、H30:1,232人、R1:1,083人
課題分析	① 課題	「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するために支障となっている点)
	② 原因	上記①(課題)が発生している原因
	③ 方向性	上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性



# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

道路建設課

事務事業の名称		通学路交通安全事業(歩道整備)			
目的	誰(何)を対象として	道路利用者(児童生徒)	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	通学路における歩行空間の整備を図り、児童生徒が安全に通学できるように通学路の安全確保する。		2,184,724	3,240,408
			うち一般財源 (千円)	51,528	65,188
今年度の取組内容	児童生徒が安全に通学できるようにするため、教育委員会、警察、道路管理者等により実施した合同点検をもとに各市町村で作成した通学路交通安全プログラムの対策必要箇所のうち、県で対策を実施する46箇所について、交付金事業や県単独の交通安全事業を活用して、歩道整備、交差点改良、視距改良などの交通安全対策を行う。 令和2年度は7箇所の対策完了を目指す。				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	国に対し地域の実情に応じた予算が配分されるよう丁寧に状況を説明し必要な予算が配分されるよう要望していく。 対策必要箇所については、地元や警察署など関係機関と協働し、多様な手法による整備を促進する。				
1	上位の施策	VIII-2-(3) 交通安全対策の推進	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	通学路交通安全プログラムの歩道整備箇所(H31.3.31時点)の整備率【当該年度3月時点】	目標値		15.0	21.0	34.0	41.0	50.0	%	累計値
		実績値	(新指標)							
		達成率	-	-	-	-	-	-		
2		目標値							%	
		実績値								
		達成率	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		平成22年度に策定した歩行環境整備計画に基づいて、歩行空間確保のための事業を実施中である。								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度は下記工区が完成し、児童生徒が安全に通学できるように通学路の安全確保された。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>(一)皆井田江津線 跡市工区</li> <li>(一)益田種三隅線 東町工区</li> <li>(主)六日市錦線 蔵木工区</li> </ul> </li> <li>以上3工区</li> <li>※上記3工区はKPIの対象とはしない。</li> </ul>	
課題分析	① 課題	「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩道整備や交差点改良等、歩行環境整備が十分に行われていない。</li> </ul>
	② 原因	上記①(課題)が発生している原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩行環境整備に必要な予算配分ができるような、財源が確保できていない。</li> </ul>
	③ 方向性	上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>国に対し地域の実情に応じた予算が配分されるよう丁寧に状況を説明し、必要な予算が配分されるよう要望していく。</li> <li>通学路の歩道整備に係る予算確保については、通学路交通安全プログラムを毎年度着実に実行できるよう、重点化要望を行う。</li> <li>対策必要箇所については、地元や警察署など関係機関と協働し、カラー舗装など地域のニーズに応じた多様な手法による整備を促進する。</li> </ul>

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

警察本部交通企画課

事務事業の名称		交通事故総量抑制事業			
目的	誰(何)を対象として	・県民	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	・交通事故状況に基づいた交通安全教育、交通指導取締り、広報啓発活動等を通じて、県民の交通安全意識の高揚を図り、交通事故のない社会を目指す。		388,603	393,045
今年度の取組内容	・高齢者の交通事故防止対策:警察官・交通安全アドバイザーによる交通安全教育、交通事故を起こした高齢者等への個別訪問指導、安全運転サポート車の普及促進、高齢者の危険回避行動励行に向けた広報啓発活動 ・運転者への安全対策:飲酒運転根絶対策の推進、横断歩道における歩行者優先意識醸成に向けた広報啓発活動 ・歩行者、自転車への安全対策:反射材の普及啓発活動、歩行・自転車シミュレータによる参加・体験・実践型の交通安全教育 ・交通街頭活動の推進:交通事故実態に応じた交通指導取締りの推進、通学路や生活道路における街頭監視活動				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと					
1	上位の施策	VIII-2-(3) 交通安全対策の推進	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	交通事故(人身交通事故)発生件数【前年度1月～当該年度12月】	目標値		900.0	870.0	840.0	810.0	780.0	件	単年度値
		実績値	927.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・県内の交通事故発生状況(対前年比)は、以下のとおり推移 人身交通事故発生件数は、H29:1,282件(-32件)、H30:1,023件(-259件)、R1:927件(-96件) 死者数は、H29:17人(-11人)、H30:20人(+3人)、R1:25人(+5人) 負傷者数は、H29:1,485人(-52人)、H30:1,212人(-273人)、R1:1,058人(-154人) 高齢者死者数は、H29:11人(-7人)、H30:12人(+1人)、R1:18人(+6人) 高齢者関与事故件数は、H29:499件(-15件)、H30:402件(-97件)、R1:410件(+8件)								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・令和元年の交通事故発生件数及び負傷者数は前年対比で約1割減少し、死者数は前年より増加したものの、3年連続で全国最少 ・令和2年5月末の交通事故発生件数及び負傷者数は前年同期と比較して約2割減少し、死者数は前年同期と比較して3人減少
課題分析	① 課題	・近年、交通事故発生件数及び負傷者数は右肩下がりで減少しているが、死者数全体に占める高齢者の割合は10年間(H22～R1)の平均で約64%と高い状態が続くとともに、全体の発生件数が減少する中で高齢者関与事故は増減を繰り返している。 ・昨年(2020年)の交通事故を事故類型別に見ると、人身事故全体では追突事故(約38%)、出会い頭事故(約24%)、人対車両(約15%)の順に多く、死亡事故に関しては人対車両(約46%)が最も多くなっている。
	② 原因	・高齢者の事故を防止するには、高齢者自身が自己の身体能力や判断能力、認知機能の状況等を認識し、夜間・悪天候時の運転(外出)を控える、安全運転サポート車を利用する、夜間外出時には反射材を身に付けるなどの危険回避行動が自主的に実践されることが必要であるが、いまだ十分に浸透していない。 ・指導・啓発に当たっては、参加・体験型の講習等で分かりやすく行うことや、個々の状態・能力等に応じたきめ細かい助言を行うことなどが重要となるが、新型コロナウイルス感染症の影響により、集合型の講習会や高齢者宅を訪問しての個別指導などの実施が困難な状況となっており、十分な指導・啓発が実施できていない。
	③ 方向性	・新型コロナウイルス感染症流行の状況を考慮しながら、感染防止に配慮した人数・手法での交通安全講習、メディア・SNSなど各種媒体を活用した広報活動等を推進し、高齢者を始めとするあらゆる世代の道路利用者に向けて安全運転の励行や危険回避行動の実践を促す指導・啓発を実施する。 ・人対車両等による重大事故や追突・出会い頭事故の防止に向け、横断歩行者妨害、一時不停止、携帯電話等使用などの違反に対する交通指導取締りを実施して安全確認、前方注視等の徹底を促すとともに、通学路・生活道路における子供や高齢者の保護・誘導活動を推進するなど街頭活動を一層強化する。

## 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

警察本部交通規制課

事務事業の名称		交通管制システム整備事業			
目的	誰(何)を対象として	・運転者や歩行者などの道路利用者	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	・交通管制システムを整備し、道路利用者の安全で円滑な交通を確保する。		273,762	342,117
			うち一般財源 (千円)	92,021	93,556
今年度の取組内容		・県民の生活がより安全で快適なものになるように、交通環境の改善を図るため、リアルタイムな信号制御、交通情報の収集提供及び交通管制システムの高度化を推進			
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと					
1	上位の施策	VIII-2-(3) 交通安全対策の推進	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上 分類
1	交通渋滞の発生時間(分)【当該年度4月～3月】	目標値		1,110.0	1,070.0	1,030.0	990.0	950.0	分	単年度 値
		実績値	1,202.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実										

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・令和元年度中における交通渋滞の発生時間は、交通管制エリアの信号機の多現示化改良や光ビーコン及び車両感知器の新設・更新整備により、交通の安全と円滑化対策に取り組んだ結果、一部のエリアは増加したが、多くのエリアは減少 ・交通事故等による交通障害発生時は、交通情報板、カーナビゲーション、ラジオ放送等によるドライバーへの情報提供により、交通を円滑化
課題分析	① 課題	・国道9号安来市内、東出雲町内及び宍道湖大橋付近における交通渋滞が常態化している。 ・夏休み期間や行楽期は、観光客の増加に伴い交通渋滞の拡大が懸念される。 ・交通管制システム端末装置などの更新整備必要数の増加が懸念される。
	② 原因	・刻々と変化する交通流に対し、交通管制システムによる信号秒数等の適切な調整が追いつかない。 ・交通管制システム端末装置などのストック数が増加している中で、老朽化が進行している。
	③ 方向性	・交通管制システムの更なる高度化を推進する。 ・交通管制システム端末装置などの計画的な更新整備を推進する。

## 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

警察本部交通規制課

事務事業の名称		交通安全施設整備事業			
目的	誰(何)を対象として	・運転者や歩行者などの道路利用者	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	・交通信号機など交通安全施設の整備を推進し、交通事故防止と交通の円滑化を図る。		462,644	487,893
			うち一般財源 (千円)	187,045	190,171
今年度の取組内容	・交通の安全と円滑を図るため、信号機の新設・改良、信号機のLED化、規制標識の高度化などを推進 ・歩行者・自転車の安全を確保するため、歩車分離式信号機や道路管理者と連携した自転車道の整備等通行環境を整備 ・交通の安全と円滑を図るため、事故実態や交通環境に応じた交通規制と見直しを実施 ・重大事故発生時など、地域住民や関係団体等の参加を得て現場検討会を開催し、要望・意見を反映した交通安全施設を整備				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・交通安全施設の老朽化対策として適正なストック管理に資するため、路側標識点検の業者委託を継続するとともに、点検を終えた大型標識の更新を順次実施				
1	上位の施策	VIII-2-(3) 交通安全対策の推進	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上 分類
1	歩行者・自転車関与の交通事故件数【当該年度4月～3月】	目標値		186.0	168.0	152.0	137.0	124.0	件	単年度 値
		実績値	251.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・島根県内における交通事故発生件数は、H29:1,282件、H30:1,023件、R1:927件と推移 ・主な交通安全施設の整備状況は、R1度:信号機1,389基、バリアフリー対応型信号機189か所、歩車分離型信号機50か所、信号機のLED化917か所								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・令和元年度中における、歩行者・自転車が関与する人身事故件数は251件であり、平成30年度から20件の増加となったが、交通事故件数については、平成22年度から毎年減少しており、交通安全施設の整備は一定の効果が認められる状況
課題分析	① 課題	・交通安全施設の更新整備必要数が増加している。
	② 原因	・各種道路の新設や改良に伴う新たな交通流に対応するため、交通安全施設の新設整備が必要となっている反面、既存施設の老朽化も進行している。
	③ 方向性	・老朽化した交通安全施設の計画的な更新整備を実施するとともに、交通環境の変化に応じて設置の見直しを図り、合理性に基づく効果的な整備を推進する。